

みなみかわ
南川遺跡

所在地 豊田市花沢町地内
(北緯 35 度 1 分 40 秒
東経 137 度 17 分 33 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 5 月

調査面積 50 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・本田英貴・
石井香代子・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 南川遺跡は県教育委員会の試掘調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

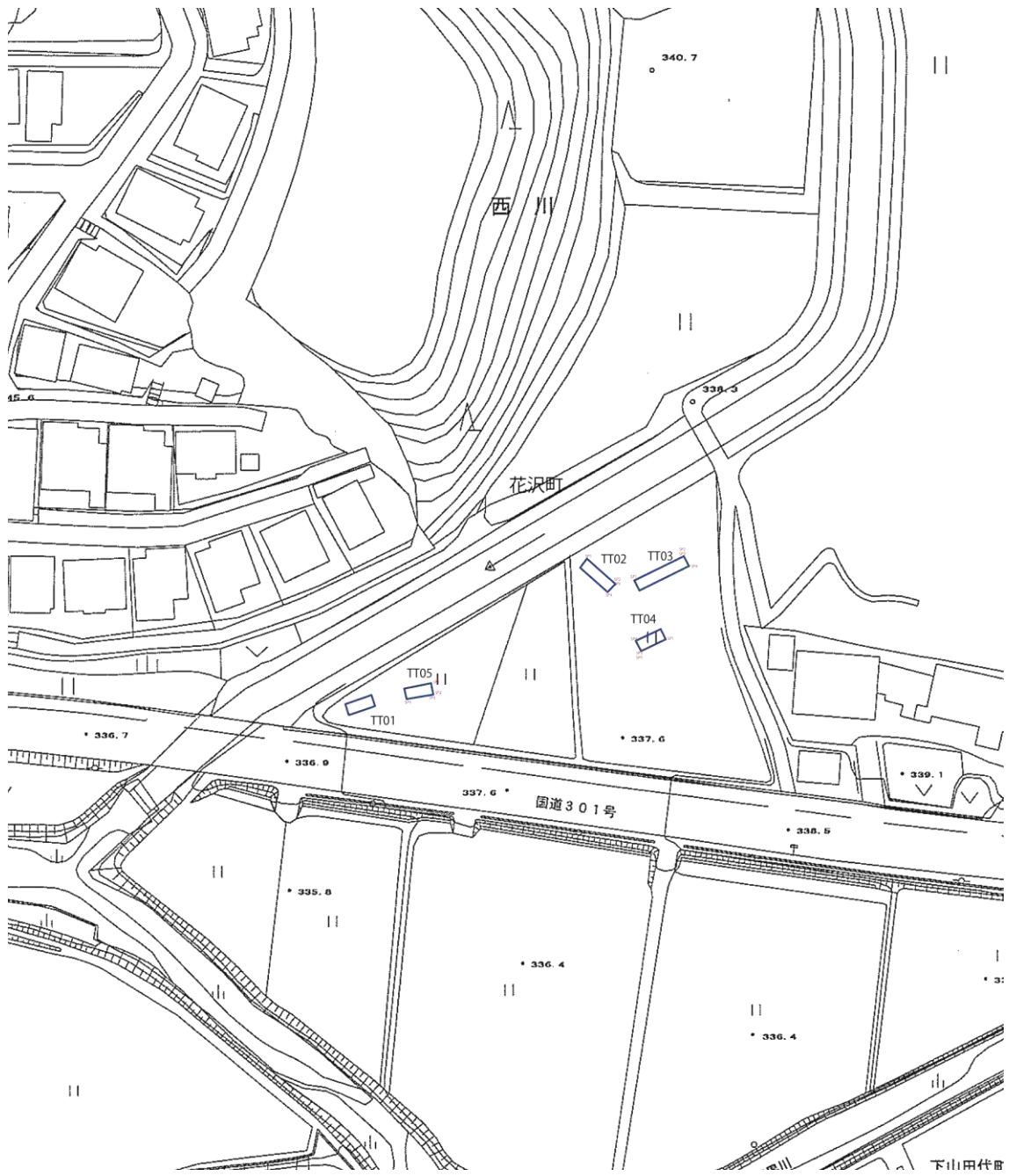
立地と環境 南川遺跡は土々目木川と郡界川の合流点近く、国道 301 号線に面した平坦地に立地する。標高は 337m をはかり、現況は水田である。

調査の概要 試掘坑は国道の北側に 5 カ所 (TT01～TT05) 設定した。

TT02 では灰黄褐色砂質シルトを埋土とする落ち込みを確認し、土師器や中世の遺物が出土した。TT02、TT04 では黒褐色砂質シルトを埋土とする落ち込みを確認し、うち TT04 では土坑 3 基を検出した。同層から遺物は出土しなかったが、試掘調査では縄文土器が黒色粘土から出土したことをふまえると、縄文時代の遺構になる可能性が高い。このほか、TT03・TT04 の暗褐色シルトから近世以降の陶器片が出土した。

一方 TT05 は圃場整備に伴う盛土の下層に、黒色および暗オリーブ褐色シルトが厚く堆積し、礫層に至る。この試掘坑から山茶碗が出土したことから、土々目木川に面した調査地点の北寄りに中世の河川堆積が広がることが予想される。

(鵜飼雅弘)



南川遺跡 試掘坑位置 (S=1:1000)

そだめだち
堤立遺跡

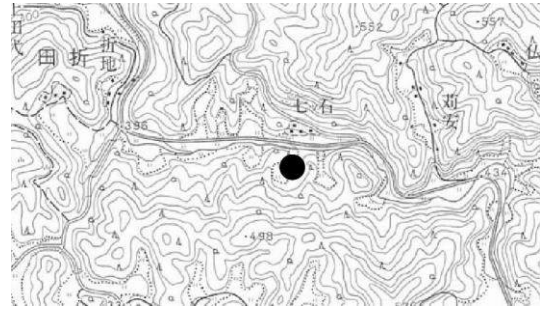
所在地 愛知県豊田市田折町地内
(北緯 35 度 1 分 46 秒
東経 137 度 19 分 36 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成

調査期間 平成 23 年 6 月

調査面積 350 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 堤立遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 堤立遺跡は郡界川左岸に位置する谷と尾根に立地する。現況は耕作地と山林である。

調査の概要 堤立遺跡に設置した 39 か所の試掘坑 (TT01～TT39) のうち、耕作地東側尾根部分で遺構と遺物を検出した。この一帯に遺跡の広がり確認できる。耕作地部分は、平成 19・20 年度に行われた分布調査において山茶碗が採集され、平成 21 年度の試掘調査では土師器、灰釉陶器が出土しているが、今年度の調査によって圃場整備による大規模な改変が行われていることがわかり、遺跡の広がり認められなかった。

耕作地南側 尾根緩斜面に設定した試掘坑 (TT21～24、33～38) では、TT21～23、34～36、38 で黒色ないし黒褐色シルトの堆積が認められた。炭化物を含んでおり、これら多くは近隣の炭焼窯に伴う堆積と考えられる。遺構は検出できなかったが、TT23 から山茶碗が出土した。

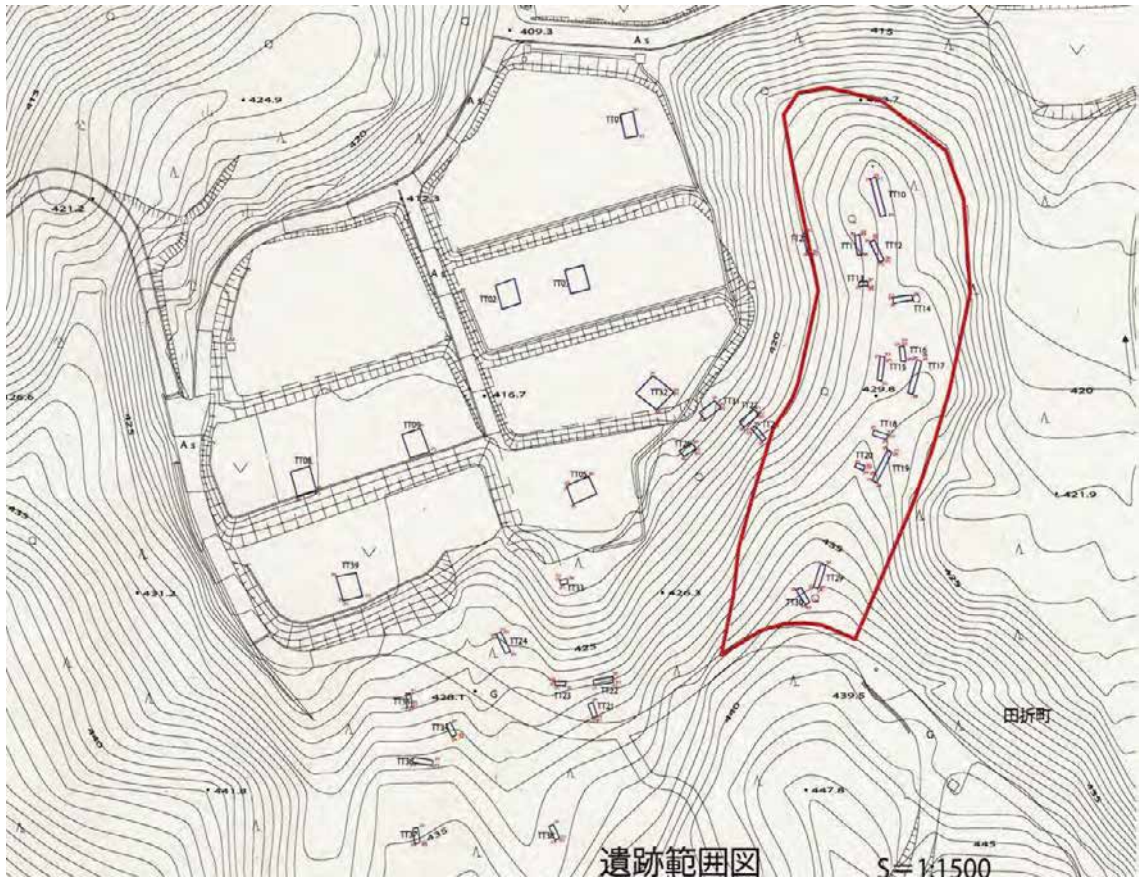
耕作地東側 尾根の稜線部に設定した試掘坑 (TT10～20、25、29、30) では、TT12、30 で炭化物と焼土を含む土坑を、TT19 でピットを検出した。また、TT18 の地山直上の褐色シルトから弥生土器 (条痕文土器) が出土した。尾根の西側斜面に設定した試掘坑 (TT26～28、31) では、TT26、27 でピットを検出したが、これらは TT28 で検出した現代の炭焼窯 (煙道に土管を使用) の灰原上から掘り込まれており、遺跡とは認められない。
(伊奈和彦)



TT18 全景写真



TT18 出土遺物



じん でん ひよも ひよも
神 デン・日面／日面遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 35 秒
東経 137 度 18 分 30 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 6 月～平成 23 年 7 月

調査面積 400 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・本田英貴・
石井香代子・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 神デン・日面、日面遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 神デン・日面遺跡は西に開口する谷の最奥に作られた水田と、その周りの斜面地である。隣接する日面遺跡はこの水田より上の、小さい平坦地が段々畑状に続く斜面地であり、屋敷跡といわれる比較的広い平坦面が 2 カ所確認できた。この 2 遺跡は遺物の流れ込みや土地利用の点でも強い関連が考えられるため、ここでは同時に報告する。

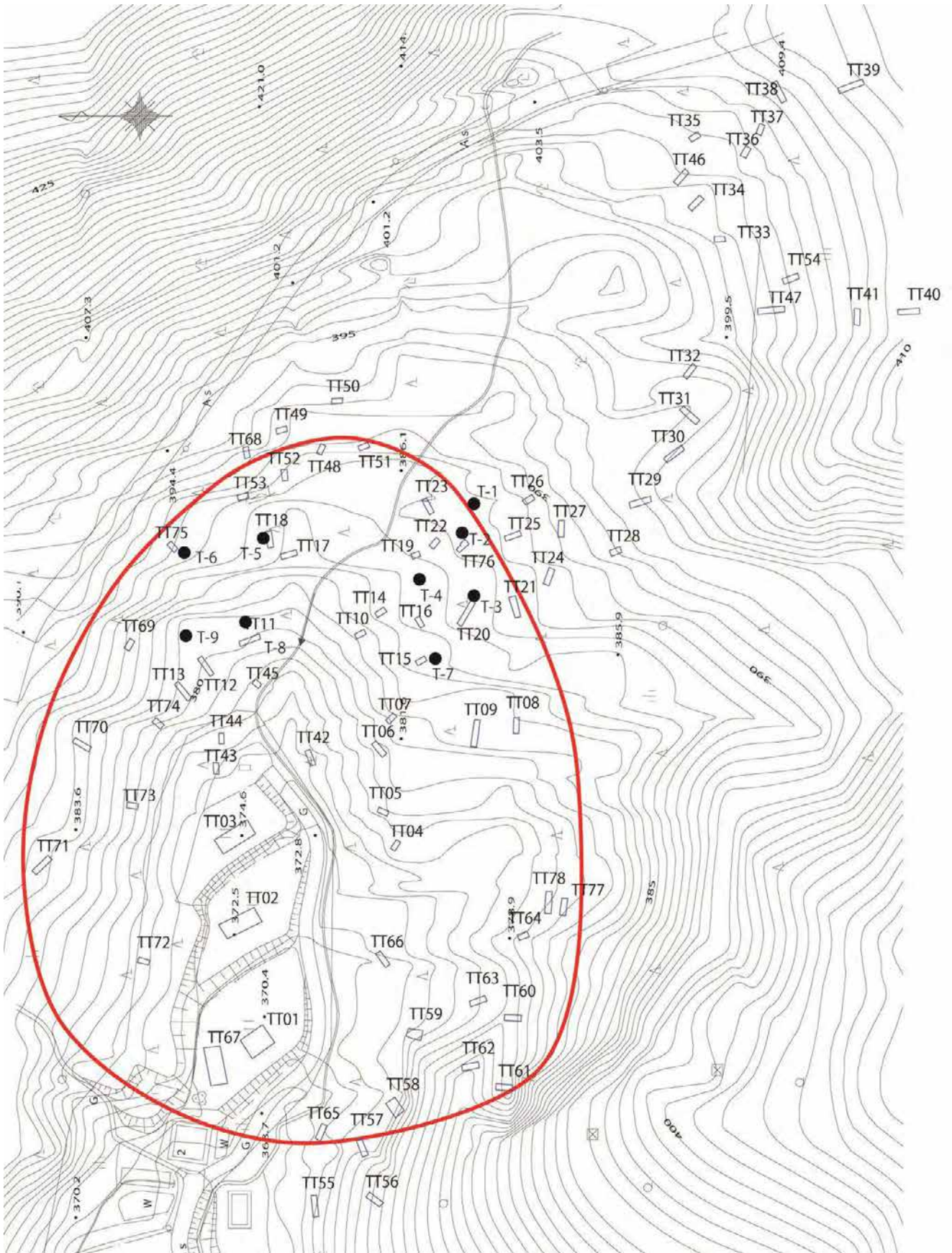
調査の概要 調査は屋敷跡にはやや多めに、斜面地でも平坦な場所にはできる限り試掘坑を設定して実施した。

神デン日面遺跡 水田部は地表下 80cm から 120cm で地山に至り、いずれの試掘坑でも流れ込みとみられる山茶碗や土師質鍋、古瀬戸等が入る包含層を検出している。ただし、遺構は検出していない。

日面遺跡 谷の北の屋敷地跡といわれる場所は、いずれも地表下 30cm 前後で包含層に達する。TT12、TT13 では、谷側の斜面に整地土を盛って平坦部を広げている状況が確認でき、各トレンチから多数の土坑や山茶碗、土師質鍋、甕の破片等の遺物を検出した。また、炭化物の層が一体に広がっていた。

一方、谷の南の屋敷地跡といわれる場所は現状でも井戸の跡が確認できた。調査では土坑や甕を設置した土坑、溝、石組井戸などを検出しており、遺物も山茶碗、土師質鍋、近世陶器が出土している。

その他の試掘坑では注目すべき遺構や遺物の検出は無く、屋敷地跡と呼ばれる 2 カ所の平坦地を中心に、それらの遺物が流れこんだと思われる水田を含めた地域が遺跡と考えられる。
(石井香代子)



神デン・日面、日面遺跡トレンチ位置および遺跡範囲 (1/1000)